

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野めぐみ

12

第三幕第3場

1521年秋

ロヨラ城

登場人物：

騎士 イニゴ・デ・ロヨラ

城主 ガルシア・デ・ロヨラ（イニゴの次兄）

兄ガルシア：イニゴ、だいぶ足取りがしっかりしてきたね。

イニゴ：おかげさまで、もうすっかり良くなりました。兄さん、姉さんたちが親身になってお世話くださったおかげです。心から感謝しています。足にちょっと力が入らないだけで、あとはすこぶる元気なので、そろそろ何か始めたいと思っています。

兄： そう焦ることはないさ。何しろ生死の境をさまようような怪我をしたのだから。

イニゴ： お世話になったナヘラ公爵をお訪ねしてお礼を申し上げ、それから旅に出ようと思っています。

兄： 旅に！ 騎士が武者修行の旅に出ることはあるが、おまえはもう立派な騎士になってるじゃないか？

イニゴ：騎士道精神は保ちながらも、もう剣や槍は捨てて、神の騎士になりたいと思っています。

兄： なんということをして！！ 今まで打ち込んできた武芸の修行や兵法の勉強をを反故にしてしまうのか？騎士としてのイニゴの名声は、パンプローナの戦い以来とみに高まっていると言うのに。ナヘラ公はじめ多くの殿も、おまえに期待してくださっているのだぞ。

イニゴ：兄さんがそう言ってくださるのも、諸侯が期待を寄せてくださるのもありがたいことだと思っています。でも、傷が癒えるのを待つこの半年の間に、今までの自分の罪深さを嫌というほど知り、償いをしなければと思うようになりました。キリストが私の罪ゆえに忍ばれた十字架の苦しみをわたしも味わわなければと痛感しているのです。

兄： 罪の償いなら、騎士の生活を続けながらでもできるではないか？

イニゴ：私の罪は重く、何かをしながら償うなどというものでなく、本気で償いに専念しなければならぬものなんです。

兄： 高貴な家柄の出なのに、諸国を托鉢して回るなど、家名に泥を塗る事にもなりかねないではないか？

イニゴ：主が十字架にかかり給うたエルサレムに巡礼したいと思っております。しかしそれは、教皇様の祝福のもとにおこなうことで、褒められこそすれ、ロヨラ家にとって決して不名誉なことではありません。

兄： 片時もロヨラ家の一員であることを忘れんでくれよ。貴族としての誇りと威厳に反するような身なりや生活をしないよう気をつけて欲しい。

イニゴ：わかりました。

【黒い使の合唱】

♪イニゴよイニゴ 兄上の お考えこそ 賢明だ
世の常識を 覆す おかしな考え 打ち捨てよ

【白衣の天使合唱】

♪ああイニゴ 神に召されし 道往かば 心に刻め
無理解と 時に迫害 ^な汝が行くて 阻むことあり